



## 尼崎市立立花中学校 学校だより

令和6年度12月

強く生き、正しく考え、優しく関わる立中生

### 「「誰か」のことじゃない。」

校長 前田 裕司

12月4日から10日までは人権週間です。人権とは、「人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」と定義されています。いじめや虐待を含めて人権問題は多様ですが、皆さんにとって身近なインターネット上の人権問題についても今一度考えてみてほしいと思います。インターネットは、パソコンやスマホ、タブレットを使って簡単に利用できます。「様々な人と交流ができる」「世界とつながっている」「楽しみが広がる」「勉強に利用できる」など豊富な情報を簡単に集めたり、自分の意見や気持ちを多くの人に知ってもらえるなどの良い面もありますが、使い方を間違えると人の心を傷つける「凶器」にもなり、使い方次第では、「加害者」にも「被害者」にもなる恐れがあります。インターネット上の人権侵害を防ぐためには、

- ・ 他人を誹謗中傷する内容を書き込まない
- ・ 差別的な発言を書き込まない
- ・ 安易に不確かな情報を書き込まない
- ・ 他人のプライバシーにかかわる情報を書き込まない
- ・ 書き込みが不特定多数の人に見られる可能性があるということを意識する



ネットの向こう側にも、皆さんと同じ人間がいます。顔が見えないからこそ、相手の人権を尊重することを忘れず、配慮をもってインターネットを利用してほしいものです。

皆さんが、夏休みに取り組んだ人権作文で、1年生の近藤春希さんが全国中学生人権作文コンテスト（尼崎大会）で優秀賞を受賞しました。ここに紹介したいと思います。

### 「十代の特攻要員から学んだ人権」

僕はこれまで戦争に対して残酷で怖いような気がしてあまり興味が持てずにいました。しかし、今世界でロシアとウクライナやイスラエルとパレスチナなど、紛争が多発しているので、日本の終戦記念日を迎えたこの機会に戦争のことを詳しく知ろうと思いました。そして題材に選んだのは新聞で特集されていた「あの頃を生きて」というインタビュー記事です。これは、戦争中の日本を生き抜いた高木さんが自分の経験を語ったものでした。

戦時中の日本では小学生もみんな戦争で活躍する飛行兵や海軍、陸軍の大將に憧れていたそうです。高木さんは僕と同じ十三歳で海軍飛行余暇練習生の試験に二度目の挑戦で合格したそうです。朝六時に起き、ハンモックを片付けます。その後国語や歴史、英語や、陸上戦で仲間に情報を伝達するためのモールス信号などを学びます。そして体力をつけるために船漕ぎなどのハードなトレーニングに耐えます。高木さんは

想像していた何倍もきつかったと話していました。それでも飛行兵になるために懸命だったといいます。そして入隊から一年が過ぎたころに兵舎で休んでいると、突然上官が来て終戦を報告されたといいます。特攻要員という爆弾を乗せて航空機で体当たりする部隊だった高木さんは、出勤命令が出る前に終戦を迎えたため生き延びることができました。

僕はこの高木さんの手記「あの頃を生きて」を読み、三つ考えたことがありました。

一つ目は、当時の高木さんのような僕と同じくらいの歳の人も、戦争に巻き込まれていたことです。高木さんは出勤命令が出る前に終戦を迎えたため、亡くなることはありませんでしたが、きっと高木さんの上司や先輩方は大勢の人が戦地で命を失ったに違いありません。特攻隊になるためには、とても難しい試験に合格する必要があり、名誉なことでした。夢や希望を描いて、努力してきた人たちが亡くなったことにとっても胸が締め付けられました。

二つ目は、当時高木さんやその他の中学生はみな、軍隊の指揮官や海軍の司令官などの戦争に多く関わる仕事に憧れていたことです。

僕は今まで戦争で兵士になることは死んでしまうかもしれない恐ろしいことだからみんな死にたくないと思いつつ戦っていると思っていました。でも家族を守るためや、安全な日本にするために誇りを持って戦っていたんだと気づきました。ですが、戦場で戦うことが名誉で、それ以外を不名誉とすることは違うのではないかと同時に思いました。血を流し合っただけよりも、戦争を止めるために大勢が一丸となって日本が争いを続けることに対して反対し、犠牲者を少しでも減らせなかったのだろうかと思いました。

三つ目は、高木さんのように戦争があった時のことを話せる人が少なくなっていることです。今年で第二次世界大戦から七十九年が過ぎてしまいました。戦争を体験した人、覚えている人はどうしても減ってしまいます。戦争で起こった悲惨な出来事を忘れてしまえば、またこのようなことが起きてしまうかもしれません。実際今でも世界ではロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナでの間の紛争で、十代の人たちが戦場に行き、また爆撃などにより、罪のない人々が命を落としています。僕は過去の過ちを繰り返さぬように僕たちの世代が実際に戦争を体験した人の話を聞いて、記憶として忘れず、考えることが大切なのではないかと思いました。

人権という言葉調べてみると「すべての国民が健康で文化的な最低限の生活を営む権利を有すること」と日本国憲法に記されていました。僕は毎日学校で友達と学んだり、部活では好きな陸上競技のクラブに入っています。自分らしく毎日生活できていることは、僕の人権が守られているからだと思います。また、自分の人権が守られているから、周りの人の人権も尊重していこうと思っています。なので、日常において「人権を大切にすること」ということについて今まで深く考えたことがありませんでした。でも、一たび戦争が起きてしまえば自分の意志とは関係なく戦場へ連れていかれてしまうかもしれないし、自分が死んでしまったり、僕が相手を殺すことさえあるかもしれません。

僕は今回「あの頃を生きて」を読んでいるうちに、戦争の下では、人権だけでなく命さえ守られなくなってしまうのだということに気づかされました。実際今、ヨーロッパや中東には当たり前の生活を奪われた人がたくさんいます。僕が僕らしく毎日を生きていくには、人権や平和が不可欠です。それらを守るためには、意見や主張が必要ですが、僕にはそのための知識や言葉が不足しています。これまでは自分とは関係ないと思い、難しそうだと避けてきた平和や人権問題についてもっと考える機会を持とうと思いました。

〈12月中行事予定〉

日	曜	行 事
1	日	
2	月	朝礼
3	火	専門委員会
4	水	
5	木	1年オンライン英会話
6	金	1年生性教育講演会⑤⑥
7	土	
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	研究授業⑤
12	木	3年生5時間授業
13	金	生徒会選挙⑥
14	土	
15	日	
16	月	3年生個人懇談

日	曜	行 事
17	火	個人懇談
18	水	個人懇談 2年希望者尼っ子検診
19	木	個人懇談 2年希望者尼っ子検診
20	金	個人懇談 給食最終日
21	土	
22	日	
23	月	個人懇談
24	火	
25	水	終業式
26	木	冬季休業日(～1/7)
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	学校閉鎖(～1/3)
31	火	

〈表彰紹介〉

- 税についての作文 兵庫県阪神南県民センター長賞 Mさん
- 尼っ子スピーチフェスティバル フェスティバル賞 Kさん
- 尼崎市人権作文 優秀賞 Kさん
- 尼崎市献立コンクール 教育長賞 Hさん  
入 選 Kさん



〈阪神総体〉

- 駅伝競技 Kさん 4区第3位



〈県新人大会〉

- バドミントン 男子シングルス 3位 Nさん

〈阪神新人大会〉

- 柔道 女子階級別 Oさん 1位  
女子階級別 Oさん 3位



〈その他大会〉

- 尼崎市陸上競技選手権大会 女子総合第2位

